

私は、1988年に伊豆で初飛行し、以来幸運にもけがをすることなく現在に至っています。

しかし、その間多くの知人・友人の事故に心を痛めてもきました。

このスポーツで一番大切なのは「安全」であると実感しています。

ですから、JHFの活動の中心は安全の確保にあるべきだと思います。

HG・PGの安全を確保するためには、教習、安全対策、競技を3本柱として同等に重視する必要があります。

教習については、その内容・方法の充実を図る必要があります。

安全については、適正な情報収集が、その対策のために不可欠です。

競技では、世界の水準に遅れをとらぬように配慮が必要です。

競技選手が得る知識と経験を、教習や安全対策を通じてフライヤー一般に還元することも期待できるからです。

制度、法務そして安全性の各委員会の活動を経験して益々このような考えを強くしました。

平成17年から理事を務め、委員の時とは違った組織の運営という視点を強く意識するようになりましたが、

基本的な考え方がゆらぐことはありませんでした。

ただ、財政面を含め運営全般を危うくする状況が生じる可能性とその原因を理解しました。

このような状況が生じないように監視する必要があります。

理事となれば、これまでと同様毅然とした態度で対応します。

また、日常の業務を行う事務局の様子も相当に理解できました。

実情に即した活動ができると思います。手始めとして、

会員の皆様への情報伝達の質、量そして速度を高める工夫を事務局と協力して行うつもりです。

安全確保を中心に置くJHFとするために、

各委員会が自由闊達に議論できる環境整備に十分配慮したいと思います。

もちろん、独自の提案も考えています。

社会に認められるJHFにするための地道な活動は継続します。

さらにムダを省いて財務状態を改善し、

正会員の方々の活動が活発となるよう、

その財政援助の強化をさらに具体化したいと考えています。

以上